

糖尿病について

内科医長 いながき ゆうこ 稲垣 優子



糖尿病とは？

糖尿病は、インスリン(血糖値を下げる作用をもつホルモン)が十分に働かないために、血液中を流れるブドウ糖(血糖)が増えてしまう病気です。血糖値が何年間も高いままで放置されると、血管が傷つき、将来的に心臓病や、失明、腎不全、足の切断といった、より重い病気(糖尿病の慢性合併症)につながります。糖尿病の患者数は、生活習慣と社会環境の変化に伴って急速に増加しており、合併症が進まないうちに早期に糖尿病を診断し、治療していくことが重要です。

どんな人がなりやすい？

糖尿病になりやすくなる環境因子として、肥満・喫煙・運動不足があります。肥満ではない方でも20歳から体重が5kg以上増加している方やジュースなどの清涼飲料水を多量に摂取する方、睡眠時間が6時間未満の方、亜鉛欠乏の方などは糖尿病の発症リスクが高いといわれています。

糖尿病の症状ってどんなもの？

症状がなく糖尿病になっていることに気がついていない方も多くいます。糖尿病では、かなり血糖値が高くなければ症状が現れません。高血糖の症状には、喉が渇く、水をよく飲む、尿の回数が増える、体重が減る、疲れやすくなるなどがあります。さらに血糖値が高くなると、意識障害を起こすこともあります。

症状が全くないまま健診などで糖尿病が判明する方もいれば、急に高血糖の症状が現れて糖尿病が判明する方もいます。また、眼や腎臓の合併症の症状が現れて、初めて糖尿病と診断される方もいます。

当院では頸動脈エコーやABI、腹部エコー、腹部CT、眼底カメラ等の糖尿病の合併症のスクリーニングも行っておりますので、検査のみご希望の場合もお気軽にご受診、ご紹介下さい。

当院の嚥下障害に対する取り組み

当院の嚥下障害患者さんは神経難病や脳血管障害、サルコペニアやフレイルに伴う嚥下機能低下など多岐に渡り、回復期の嚥下訓練から終末期の関わりなど幅広い対応が求められています。そのため透視機器を使って目に見えない嚥下を可視化し、詳細な嚥下機能を調べるVF(video-fluorography)検査にも力を入れています。また、言語聴覚士が中心となって訓練を行いながら摂食機能療法チームや栄養サポートチームといったチーム活動と連携したり、嚥下サマリーを通じて関係職種の方々と情報共有し、患者さんが安全に口から食べることが出来るようサポートしています。VF検査は外来でも実施可能ですので、嚥下で気になる方がいれば、一度当院までご相談ください。



●林好加看護師長が「看護師特定行為研修」を修了しました

特定行為とは、医師が行っている医療行為の一部を看護師が実施できる行為のことで「診療の補助」とされています。「診療の補助」である特定行為を学ぶ研修制度は保健師助産師看護師法に位置づけられており、研修を修了した看護師は患者の状態をアセスメントし、タイムリーな対応をとることが可能となります。

今回、放送大学で共通科目を受講、和歌山県立医科大学で区分別科目の受講を行い以下の区分を修了しました。

- ・栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連
- ・末梢留置型中心静脈注射用カテーテル(PICC)の挿入
- ・気管カニューレの交換
- ・中心静脈カテーテルの抜去



●令和3年度入社式(令和3年4月1日)

入社式が行われ、12名(医師1名、看護師2名、理学療法士1名、作業療法士2名、調理員1名、薬局助手1名、事務員4名)の職員が入職しました。成川暢彦院長から“健康管理に注意し、当院の職員として自覚や向上心を常に持ち続けるように”との激励の挨拶を受けました。



●新入職員研修(令和3年4月1日～5日)

新入職員は3日間にわたり、感染対策や接遇、医療安全など12項目とグループワークによる研修を受け、これから医療の現場で働くための基礎となる知識を学びました。今後は各々の部署で活躍することを期待します。



●新型コロナワクチン接種のシミュレーションを行いました(令和3年3月12日)

受付から医師の診察、接種後の経過観察など新型コロナワクチン接種における一連の流れのシミュレーションを行いました。時間を測りながら、担当ごとに確認を行い改善する点を話し合いました。医師・看護師に加え、医事課職員やコメディカルスタッフも交え、多職種で協力して安心・安全な接種に向けて手順確認を行えたよい機会となりました。

